

**用意する物(道具)**

電子スケール・ヒートガン(大風量ドライヤー)・非接触温度計・ガストーチ・ピンセット  
スポイト・ビニール手袋・ダンボール箱・布・ヘラ・紙コップ・混ぜ棒・竹串

**材料**

時計盤・Resin off・波専用レジン・シュプリームホワイト・celladd  
着色剤(アクリル絵の具、マイカパウダーなど)・ラメ

**～作業前の準備～**

レジンをテーブルにつくと取れなくなる為ビニールシートを敷きましょう  
エプロンや手袋を着用し、出来るだけ換気をした状態で作業するようにしましょう。

**1.Resin offを塗る**

裏側に流れるレジンを取りやすくする為に、裏面全体にResin offを塗る。  
マスキングテープでは手間がかかる為、Resin offを使用。

**2.レジンを混ぜる**

主剤2：硬化剤1の割合で波専用レジンを混ぜる。  
レジン合計120g(主剤80g：硬化剤40g)  
気泡が入らない様にゆっくりと混ぜ、濁りがなくなるまでしっかりと混ぜる。

**3.レジンの粘度をつける**

レジンの硬化熱でレジン温度が38度～42度(熱いお風呂くらい)になるまで放置する。  
硬化が遅い時はヒートガンでレジンを温める。  
ヒートガンで温める時は使用したい温度より3度くらい低い温度に温めて、1～2分後に計測。

**4.レジンを紙コップ3つに分ける**

先に紙コップに白波用レジン(10g)を取り分け、残りのレジンを二等分(海2色用)にする。

**5.着色剤を混ぜる**

白波用レジンに、シュプリームホワイトを大豆1個分混ぜる。  
青系の着色剤はレジンの硬化を早める性質があるので  
青より遠い色から着色する。 例)白⇒緑⇒青

**6.時計盤に海色レジンを流し込む**

海側のレジンを時計盤に流し、ヘラや指でレジンを広げる。  
数字の隙間を竹串を使って塗る

**7.レジンの粘度を確認し、白波用レジンにcelladdを混ぜる**

白レジンを流す直前にcelladdをスポイトで数滴入れて混ぜる。

**8.白レジンを波打ち際のフチに流し込む**

広げた海色レジンの端に沿うようにして一本線を描く様に白レジンを流す。  
海色レジンと隙間が出来ない様にする。もし隙間があったらヘラなどで埋める。

**9.ヒートガンで波を広げる**

白レジンが海色レジンの上に薄く膜を張るように風を当てていく。  
1カ所だけに風が当たり続けられない様にヒートガンを左右に振りながら風を当てる。

**10.竹串で数字の間のレジンを取る**

数字の間に流れ込んだレジンを、竹串を使って取り除く。

**11.ガストーチもしくはバーナーで気泡を飛ばす****12.約2日間硬化を待つ**

硬化中にホコリがつかないようにダンボールなどでカバーをする。

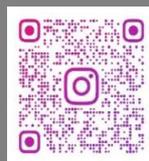
**13.完全硬化後に裏側のレジンを取る**

裏面にこぼれたレジンをヘラ等で取り除く  
後が残った場合は、ヤスリで削る。

\*こちらのテキストを無断で複製し第三者に開示することを禁じます。  
\*レッスン内容は予告なく変更になる場合がございます。  
\*レッスンで使用していない材料を使用したアレンジ品などのご質問はお控えください。

エポキシアート協会 045-784-6681

エポキシアート協会の情報は  
各SNSからご確認を→

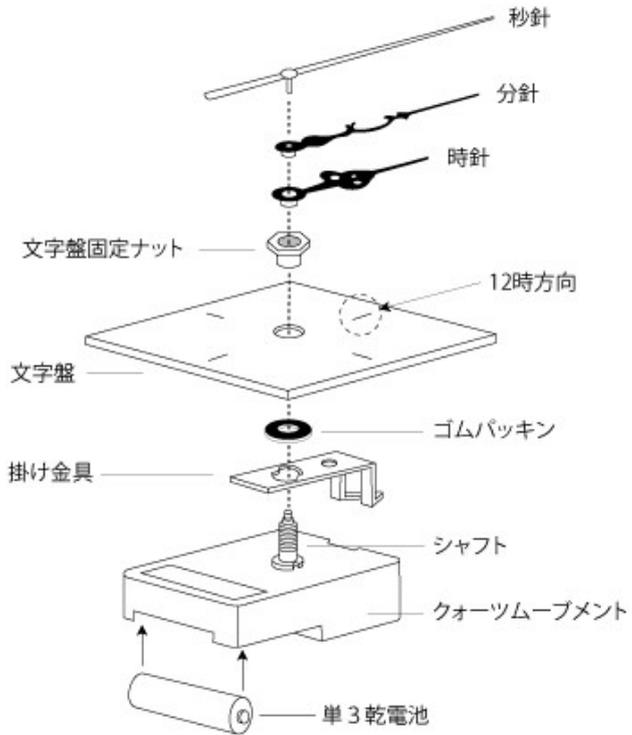


Instagram



ライン

# 時計の組み立て方法



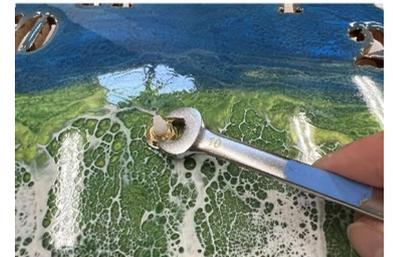
①材料を準備



②ムーブメントを付ける



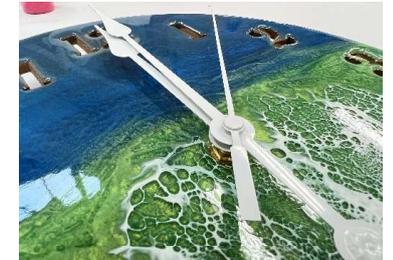
③シャフトの長さを確認



④スパナで締める



⑤動かないか確認



⑥針を取り付ける